

介護人材確保へ連携

三八の産学官 中高生に情報発信

八戸学院大短期大学部は20日、産学官の連携で介護に携わる人の育成や確保を進める「三八地区介護人材確保・養成プラットフォーム」を立ち上げた。三八地域の介護事業所や高校、行

政の担当者で構成。介護の仕事を紹介する冊子の作成や中高生への情報発信などを行い、介護職の人材不足解消を目指す。事業は本年度から3カ年計画で実施。青森県の「地

域医療介護総合確保基金」を活用する。

同日は同大で初会合が開かれ、市内や南部町、階上町にある介護事業所の代表や、県立高校で進路指導を担当する教員、市の担当者ら約15人が参加。「進路指導をする教員を集めて、介護職のキャリアアップや収入の見通し、仕事の魅力を紹介してはどうか」など、

介護人材の確保に向けた取り組みについて意見を交わした。

本年度は、同大の学生が介護の現場で働く人を取材し、中高生や教員が対象の「介護の仕事紹介マガジン」を作成する予定。今後も定期的な会合を開き、出た意見を基に事業の幅を広げる。